

透湿ルーフィング協会

独自規格値を公開

屋根用の透湿防水シートメーカー5社でつくる透湿ルーフィング協会（東京都品川区、武田敏会長）は11月12日、透湿性能を持つ屋根防水シートの性能値を業界内でとりまとめた「暫定規格値」を公開した。

同協会が取得をねらうJIS規格のたたき台となるもの。外壁ではサイディング・モルタルの下地材として「透湿防水シート」が市場を確立していることから、同協会では今後早期にJIS規格を取得し、屋根防水シート市場でのシェア拡大を目指す。

今回、同協会が提示した暫定規格値は全14項目。すでにある外壁用透湿防水シートとアスファルトルーフィングのJIS規格、さらに海外のルーフィング規格なども参考に、初期性能10項目について独自規定を示したほか、長期の耐久性について4規定項目を盛り込んだ。

初期値のうち「寸法表示」「引張強度」「引張伸び度」「引裂強度」「耐水圧」「発火性」の6項目は、透湿防水シートと同等値を設定。製品厚みを生かし「綴り針強度」「寸法安定性」の2項目では透湿防水シートよりも厳しい規格値とした。

「透湿抵抗値」（ $\text{m}^2 \cdot \text{Pa} / \mu\text{g}$ ）を

「0.5以下」とし、透湿ルーフィング特有の強みを強調した。防水性能の要となる「釘穴止水性」については、日本建築学会が示す屋根工事の仕様書「JASS12」の処理条件を採用。「5mm以上の減水なし」と明確な定量規格値を示した。

さらに長期使用時の耐久性についても規定。透湿防水シートのJIS規格で定められた劣化条件を参考に「引張強度」「耐水圧」

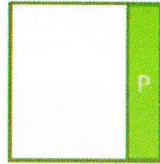
「引張伸び度」「引裂強度」の4項目で独自規格や表示義務を示した。現在、屋根用防水シートではアスファルトルーフィングが9割以上のシェア。透湿ルーフィングの市場占有率は約5%に留まる。同協会の暫定値公表の背景には、新築住宅着工の減少が見込まれるなかで早期にJIS規格を取得し、屋根用防水シート市場のシェア拡大に本格的に乗り出そうというねらいがある。3年後にシェア10%達成を目指す。

武田会長は「今後住宅の長寿命化の流れのなかで、透湿性の高い屋根防水材は外壁と同様に必要とされる。JIS規格を取得することで、製品の存在とその効果を認知してもらい、普及に努めたい」と話している。

JIS規格化を想定 屋根防水の市場拡大目指す

土地所有者に向けた駐輪場の提案

（設置例）



駐車場などで利用するも活かせていない土地



土地所有者に「駐輪場」 狭小地・変形地向けに提案

日本コンピュータ・デザインミクス（東京都品川区、下條治社長）は、土地所有者向けに駐輪場を使った土地活用提案をしている。同社によると、駐輪場は初期投資が少なく、他用途への転用が容易、経営がそれほど難しくなく、狭小地・変形地に対応しやすいといったメリットがある。空き家率が増加している現状を受け、ア

パート・マンション経営で空き室リスクを抱えるよりも、自転車ブームが継続しているいま、駐輪場が収益性が高められるとする。同社では現在約1180カ所、30万台の駐輪場を運営。同社が駐輪機器・システムを導入する場合、土地所有者は初期費用をかけずに管理・運営を一任、定額賃料を受け取ることができる。

MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better

家庭から宇宙まで、エコチェンジ



室内の快適な空質環境を保ちながら、

温度交換効率をさらに高く省エネ。管電圧を最適化する